

令和6年

一般社団法人

北海道電業協会 会長年頭挨拶



一般社団法人 北海道電業協会

会長 藪下 裕己

新年あけましておめでとうございます。令和6年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員ならびに関係者の皆さまには当協会の活動に対し、日頃より格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行されたことで、コロナ禍前の日常が徐々に戻って来ていることが実感されるようになり、様々な制約下の中で行ってきた協会活動も概ね予定通り展開することができました。

一方、国外情勢に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻と中東における武力衝突が同時に進行し、報道等で連日厳しい情勢が伝えられるなど先行きは依然不透明な状況となっています。このような不安定な国際情勢に加え円安の進行などにより、資機材価格の高騰や物価上昇が景気の持ち直しに影響を与え、当業界にも影響が及ぶ1年となりました。

こうした影響は本年も継続するものと見込まれますが、北海道は今、ラピダス社の千歳進出や大規模データセンターの誘致、再エネ電源のさらなる導入と連系拡大に向けたインフラ整備など引き続き旺盛な建設需要下にあります。当業界は、電気設備の設置とその保守管理などを通じて地域社会に貢献していく役割を担っており、その役割は今後ますます増大するものと考えます。会員相互がこれまで以上に連携し、持てる力をフルに発揮していかなければなりません。

このような中で、当業界においても担い手不足、技術者・技能者不足が顕在化しています。また、本年4月からは時間外労働の上限規制も始まってまいります。旺盛な建設需要への対応や労働環境の改善に向けて、作業の効率性や生産性の向上に引き続き積極的に取り組むことが必要です。ただ一方では、工期の終盤を担うことも多い私どもは、業界内の努力だけでは解決できない側面も抱えている現状にあります。長時間労働を是正すべく、現場の「4週8閉所」の実現や適正な工期設定など、これからも協会活動を通じて、官公庁さまをはじめ発注者の皆さまに特段のご理解とご支援をいただけるよう取り組んでまいります。

本年は「甲・辰年」。芽が成長し、姿・形を整える年とされています。誇りと自信をもって働ける「夢と生きがいのある業界」を目指して、協会活動を行ってまいりたいと考えますので、引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、この1年の皆さまのご繁栄・ご活躍をお祈り申し上げ、年頭にあたってのご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

以上